

## Topics I 九州

# 地域住民・行政・学生が連携したフットパスづくりと人材育成

内田 晃 北九州市立大学地域戦略研究所

北九州市立大学では平成26年度から福岡県中間市で『フットパス』を活かした地域活性化に取り組んでいる。フットパスとは、地域に古くから存在する「ありのままの道」を歩きながら、季節の草花や農作物を五感で意識し、住民との会話や地元食材を使った郷土料理を楽しめる新しいツアーリズムである。来訪客だけが楽しむのではなく、地域住民にも健康から防犯に至るまで様々な効果をもたらす上、特段の観光資源のない地域でも適用可能なことから、どこでもやれる「身近な」地域活性化策として注目されている。

当初は外国語学部、経済学部等から集まった10数名の学生達が現地でのランブリング（そぞろ歩き）を通じてコースづくりに取り組んできた。ところが1年近くが経過した頃に、教員及び行政主導によるフットパスづくりに疑問を抱いた学生達が、市民と協働したフットパスづくりこそ、その理念を実現できる唯一の体制であると訴えてきた。それを受け、広報誌で市民を募集したところ20名近くが集まり、その後月1回のペースで学生と市民の協働によるコースづくり実習を行った。平成28年7月の時点で4

コースが完成し、うち2コースはFNQ（フットパスネットワーク九州）による公認コースとして認定されている。

FNQはフットパス活動を地域で牽引する人材（フットパスリーダー）を育てることを目的として年に3回ほど「フットパス大学」を開講し、これまでに120名以上のフットパスリーダーを認定した。現在、中間市で活動している地域創生学群・廣川ゼミの2～4年生23名、市民12名がこの講座を受講し、リーダーの資格を取得している。フットパスづくりのための“賢い”手法を余すことなく伝えるフットパス大学が果たしている役割は大きい。今後もフットパスによる地域活性化が九州中に広まることを期待している。



(左) 学生と市民によるランブリング (右) フットパス大学の講義

## Topics I 九州

# 北九州におけるリノベーションまちづくり

片岡 寛之 北九州市立大学地域戦略研究所／北九州家守舎

近年、全国各地において、地域再生の手法としてリノベーションまちづくりが注目を集めているが、そのモデルケースとなったのが北九州市における取り組みである。

リノベーションまちづくりの目的は、都市や地域の経営課題を解決し、エリアの価値を向上させることで、持続的な都市経営を図ることである。そして、この取り組みを進めていくためには、4つの骨格(①都市政策、②リーディングプロジェクト、③推進エンジン、④事業化主体)が必要となる。北九州市を例にすると、都市政策にあたるのが2011年に策定された「小倉家守構想」、リーディングプロジェクトが同年6月にオープンした「メルカート三番街」、推進エンジンにあたるのが同年8月から始まった「リノベーションスクール@北九州」、事業化主体が2012年4月に設立された「株式会社北九州家守舎」である。

さて、リノベーションまちづくりの推進エンジンとして、全国各地で実施されているリノベーションスクール(以降、RS)であるが、その目的は、実際の遊休不動産に関するリノベーションの事業計画を不動産オーナーに提案して事業

化すること、実際に再生した建物等が起爆剤となって当該エリアの価値を高めていくような波及効果を生み出すことである。北九州では、毎年2回のRSを開催することで、これまでに約60の提案がなされ、RS案件以外も含めて約20のPJが事業化され、数多くの新規創業者等を生み出している。2016年8月18日～21日には第11回RS@北九州が開催されるので、乞うご期待を。

なお、北九州家守舎では、北九州におけるリノベまちづくりの視察ツアー(有料)も随時受け付けています。ご希望の方は([info@yamorisha.com](mailto:info@yamorisha.com))までお問い合わせを。



リノベーションスクール@北九州  
<http://kitakyu.renovationschool.net/>